

令和3年度 日野市立東光寺小学校経営重点計画				自己評価シート				令和4年3月公表			
★学校教育目標				○明るい子ども ○考える子ども ○強い子ども				★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）								学校の教育目標、目指す学校像を達成するために、第3次日野市学校教育基本構想「すべての“いのち”がよろこびあふれる未来をつくっていく力」を基本構想の理念とし、「いのち」「学び」「地活」について重点化するとともに、 ①「特別活動」を校内研究として取り組み、児童の自尊感情や自己有用感を高める。学級活動を年間を通して校内研究に位置付け、研究の中心を他教科との往還に置く。 ②生活指導については、「東光寺スタンダード」を完全実施し、規範意識の育成、基本的な生活習慣・授業規律を確立する。学校便りを通して、保護者・地域にも発信する。 ③コミュニティ・スクールとして、地域との双方向のつながりを強め、地域に根ざした学校を目指す。地域の特色を生かした活動の充実と、地域のために貢献・活動をする児童を育成する。地域・保護者ボランティアを授業や、教育活動全般へ積極的に要請する。			
【めざす児童・生徒像】				○自然を大切にし、優しい心で接する子ども ○自ら考え、判断して、よりよく学び、行動する子ども ○健康・安全に心がけ、前向きな気持ちで生活する子ども							
【めざす学校像】				○日野市自他とともに認める一番いい学校であり、誰もが通ってみたいと思う学校							
【めざす教師像】				○向上心をもち、常に指導法の改善を心がける教師 ○児童一人一人を見つめ、輝かせる教師 ○公務員としての自覚と地域貢献意識をもつ教師							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標		評価点			成果指標	
いのち	自他の生命を大切にし、正義感や自尊感情・自己有用感、社会貢献意識など人権意識や豊かな人間性、社会性を育てる。	「特別の教科 道徳」を授業の要とし、教育活動全体を通じて家庭や地域との連携を図りながら、“いのち”の教育を推進し、自尊感情や自己有用感を高める。 校内支援体制及び相談体制を充実し、児童全員が安心して過ごすことができるよう、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、即時対応に努める。	“いのち”を実感できる体験的な活動や生きる喜びや楽しさを実感できる学習や活動を行う。 〈中核的な活動〉 ・全校「一人一鉢」栽培（高学年は菊・中学年と低学年は検討中） ・農業活動の体験を通した「食」への感謝と正しい知識の理解 ・“いのち”をテーマとした道徳授業地区公開講座や学校公開での授業公開 ・保護者・地域の方々と共に避難所開設訓練の実施	4	4	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が90%以上	3.2	4	自らすすんで植物の栽培にかかわった児童が100%	・「一人一鉢」栽培は日々の“いのち”の大切さや美しさを感じ取れる大変よい取組である。先生方の負担は大きいと思うが、菊の栽培は是非続けてほしい。市長賞も素晴らしいかった。 ・種蒔きをしたことで終わっている様子が見られた。菊の土作りには担任の声掛けもあり特に6年生が関わっている様子が見られた。田植え後の関わりがなくなったことは残念。学校ボランティアに要請してもよいのではない。 ・“いのち”・食への関心を深める授業や活動は数多く行われていた。子供たちの“いのち”への関心度も高く、朝の赤ちゃんや池の魚を見たり園道や道端の虫を保護したりする等、小さな“いのち”の大切さを理解している。給食も残さずに完食したという声も多く聞いている。そうした体験を各家庭でも共有していただきたい。	
					3	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が80%以上		3	自らすすんで植物の栽培にかかわった児童が90%以上		
					2	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が70%以上		2	自らすすんで植物の栽培にかかわった児童が80%以上		
					1	“いのち”の取組を学期に1回以上行った教員が70%未満		1	自らすすんで植物の栽培にかかわった教員が80%未満		
いのち		校内支援体制及び相談体制を充実し、児童全員が安心して過ごすことができるよう、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、即時対応に努める。	年3回の「ふれあい月間」等を利用し、全校で定期的ないじめの調査を実施すると共に、児童の自発的・自主的な活動を実施する。 〈主な取組〉 ・スクールカウンセラーによる5年生への全局面接 ・年3回の「いじめアンケート」の実施と聞き取り調査の徹底 ・朝の「挨拶運動」への児童の参加 ・計画・代表委員会が中心となった「学校をよりよくするための児童発の取組」の実践 ・朝会等でのいじめ防止への講話	4	4	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が100%	3.4	4	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が90%	・特別活動の取組の成果が表れており、互いの考えや個性の違いを認め合う土壌が育っている。 ・いじめに対しては未然防止に努め、即時対応ができるよう、報告・連絡・相談の体制が整えられてきている。エール、ほっとも、子ども家庭支援センター等とも情報交換をしていく。 ・クロームブックを使ったオンライン授業、保護者会等を実施し、学校の様子を伝えていく。	
					3	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が90%以上		3	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が80%		
					2	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が80%以上		2	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が70%		
					1	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が80%未満		1	児童アンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が70%未満		
学び	「一律一斉の学びから自分に合った多様な学び方へ」と転換を図るために、校内研究・研修の充実を図り、指導法の工夫や教材研究を行い、児童の力を最大限に引き出す。	特別活動では、「話し合い活動」の積み上げを生かし、自分たちで考え、語り合いながら学び合いの学習活動を展開する。前学年の復習と新学年の学習内容の定着を徹底に努める。	児童の学力向上及び教員の授業力や学級経営力の育成・向上を図り、協働的な学習を中心とした授業改善を図る。 ・分からないことを「分からない」と言える雰囲気、「教えて」と言える関係、教え合える風土をつくる。 ・自分たちなりの方法で、自分たちなりに考える過程を大切にする。 ・一人一台タブレット（2年生以上）の有効活用やメディアコーディネーターを積極的に活用した研修を行い、一人一人へのよりきめ細やかな支援体制を整える。	3.04	4	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が80%以上	3.4	4	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が90%	・特別活動で培った力を基に、協働して課題を解決する力を伸ばし、わくわくする授業を展開していく。 ・クロームブックを活用することで、一人一人が活躍をする場が増えてきている。今後は、どのような場面での使用が効果的かを検討していく。 ・消毒や植物の栽培等、地域コーディネーターが中心となって、保護者や地域の人材を活用し、教員の負担が軽減できるよう体制を整えていく。	
					3	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が70%以上		3	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が80%		
					2	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が60%以上		2	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が70%		
					1	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が60%未満		1	児童のアンケートで「授業が分かりやすい」と答えた児童が70%未満		
地域	コミュニティ・スクールとして地域と学校との双方向の教育活動を展開し、地域に根ざした学校を目指す。	経験させてもらう学習から、地域に貢献できる活動へと高めていく。開校して現在までお世話になった保護者・地域の方々に感謝と尊敬の念をもたせる。	・地域と積極的に関わり、子供たちが主体となって考え、発信する活動、地域と共に行う活動、地域に貢献する活動など、双方向の活動を行っていく。 ・昨年度、日野市役所、地域の消防団、保護者の協力のおかげで、学校で一泊二日の防災キャンプを実施することができた。その後、6年生の子供たちから「地域の方々へのお礼をしたい」と声が上がり、地域清掃を実施した。このような児童発信の活動を各学年の発達段階に応じて行っていく。 ・代表委員会が考えたスローガン「明日も来なくなる東光寺」を元に、東光寺小学校をよりよい学校にしよう、日野市で一番いい学校にしようとする決意をもたせる。	4	4	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が90%以上	2.8	4	児童アンケートで、「地域のために役立つ行動ができた」と答えた児童が80%以上	・地域の方々にお世話になっているという感謝の気持ちを、行動に移すことができるように、生活科と総合的な学習の時間に確実に位置付ける。 ・教科の授業、道徳授業、生活指導等、様々な場面において、児童の実態に合わせ、子供たちの成長につながる場をつくっていく。 ・地域行事等へ教員が積極的に関わり、児童や保護者と協働し、地域とともにあろうとする姿勢を見せる。	
					3	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が80%以上		3	児童アンケートで、「地域のために役立つ行動ができた」と答えた児童が70%以上		
					2	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が70%以上		2	児童アンケートで、「地域のために役立つ行動ができた」と答えた児童が60%以上		
					1	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が70%未満		1	児童アンケートで、「地域のために役立つ行動ができた」と答えた児童が60%未満		
特別活動	児童が互いに認め合う中で、「自分は大切な存在である」「自分が役に立っている」「自分の居場所がある」ことを実感し、自己有用感を高め、健全な自尊感情を育む。	学級経営充実のため、年間を通して特別活動の研究と研修を行う。子供たちには実践を通して成就感を積み重ねることで自己有用感をもたせ、自信をつけさせる。また、今年度は、研究の中心を「特別活動と他教科等の往還」に置き、特に国語科での授業改善に取り組む。	学級会の進め方について、児童も教員も共に学ぶ。クラブ活動・児童会活動の進め方についても学級会での話し合いを生かし、児童の手によって計画などを決められるようにする。 〈主な手立て〉 ・教師用指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」、副教材「楽しい学校生活」の活用 ・全学級の学級会授業観察 ・委員会・クラブ活動の様子をオンラインを活用して全校に紹介	3.8	4	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が90%以上	3.2	4	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が80%以上	・とても素晴らしい活動だと感じています。自分の子供のときにこの取組みで育ててもらったかった ・目に見てる学級活動に取り組む熱意を肌で感じた1年であった。バトロールという名目で校内を巡回させていただき、各クラスをのぞかせてもらったが、各々特色を活かし、明るく活発な学級運営を目指すクラスが多かった。	
					3	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が80%以上		3	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が70%以上		
					2	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が70%以上		2	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が60%以上		
					1	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が70%未満		1	児童アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が60%未満		
特別活動	児童が互いに認め合う中で、「自分は大切な存在である」「自分が役に立っている」「自分の居場所がある」ことを実感し、自己有用感を高め、健全な自尊感情を育む。	学級経営充実のため、年間を通して特別活動の研究と研修を行う。子供たちには実践を通して成就感を積み重ねることで自己有用感をもたせ、自信をつけさせる。また、今年度は、研究の中心を「特別活動と他教科等の往還」に置き、特に国語科での授業改善に取り組む。	児童が自分たちの学校生活を自らよりよくしていけるよう、平成30年度から特別活動の研究を進めている。昨年度は、日野市教育委員会研究奨励校として3年間の研究成果を発表した。今年度は特別活動の研究4年目となる。研究の中心をこれまで育んできた資質・能力を生かした他教科等との往還に置き、授業改善に取り組む。 ・低学年・中学年・高学年・専科・ステップ教室の5つの部会で、それぞれの発達段階や特性に応じた研究の推進する。 ・国語科の【C読むこと】を中心とした授業実践・改善を行う。	3.8	4	研究主題に基づく特別活動の取組を行った教員が90%以上	3	4	児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が80%	・とても素晴らしい活動だと感じている。 ・自己有用感を高め、自信につながっているとと思う。 ・何をすべきではない・しなければいけない、何が学校をよくし、また悪くさせるのかという基本に立ち返った意識改革の深さを感じた。 ・授業参観が感染状況の高、中止等になり残念。しかしながら、学校生活の中で、高学年の自分たちができるところを自然に実践している様子が見られた。 ・学校（先生）と児童の取組を保護者を知ってもらい、保護者も巻き込んだ活動になることを期待したい。	
					3	研究主題に基づく特別活動の取組を行った教員が80%以上		3	児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が70%		
					2	研究主題に基づく特別活動の取組を行った教員が70%以上		2	児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が60%		
					1	研究主題に基づく特別活動の取組を行った教員が70%未満		1	児童アンケートで「学校や学級のために自分が役に立っていると感じる」と答えた児童が60%未満		
生活	生活指導の充実と豊かな人間関係の育成及び安全で安心できる学校体制をつくる。	学校生活全体を通して、基本的な生活習慣や学校のきまりについて、全教職員が、いつでも、どこでも一貫性のある指導を行う。	「東光寺スタンダード」の基本的な考え方や取組方を共通理解し、完全実施を行う。 〈主な取組〉 ・時間の厳守 ・廊下の歩行 ・来校者や友達への挨拶の励行 ・脱いだ靴の整理整頓、ゴミ拾い等の奨励 ・授業を中心に互いに敬称を付けて名前を呼び合う習慣	4	4	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が80%以上	3.1	4	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が80%	・これから一貫した指導をお願いしたい。子供たちも「あの先生は○で、あの先生は×」ということがないよう安定すると思う。 ・来校者への挨拶の励行はほぼできているように思う。 ・時間の厳守、ゴミ拾いの励行等、気になる点がある。8時30分以降の登校や教室内のゴミが目立つ。また、一部の教員だけが挨拶をしない職員より履きのまま外に出て児童を見送り、そのまま校舎内に戻るといった姿もあり、残念に思う。 ・下校時に正門まで見送っている先生がボランティア活動中の通学路安全運転呼びかけ隊に無反応な様子が見受けられる。東光寺スタンダードの「挨拶」を率先していただくとボランティア活動が楽しくなる。	
					3	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が70%以上		3	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が70%		
					2	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が60%以上		2	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が60%		
					1	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が60%未満		1	児童アンケートで「東光寺スタンダードが実行できた」と答えた児童が60%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。